

IFSTTAR, JATP 日仏ワークショップ参加報告

2017. 9. 13, 14

国際交流委員会副委員長
早稲田大学 加藤麻樹

[French-Japanese Workshop]

2016年に横浜で開催されたICPを経て、2017年9月13日(水)、14日(木)の2日間にわたり、フランス軍施設に隣するIFSTTARと日本交通心理学会(JATP)との共同開催によるワークショップが開催された。ワークショップ企画を主に運営して下さったIFSTTARのDr. Viola CAVALLO氏, Dr. Jean-Marie BURKHARDT氏, Dr. Valerie GYSELINCK氏と、太田会長ならびに岡村国際交流委員長との間で取り交わされた事前の綿密な調整に基づき、日仏合わせて24件のオーラルプレゼンテーションと4件のポスタープレゼンテーションが実施され、このうち日本からの参加はオーラルプレゼンテーション、7件ポスタープレゼンテーション3件であった。



[Important Keywords]

ワークショップでは主に交通研究に関する各研究者のビジョンを基にしたこれまでの研究成果と今後の研究計画に関するプレゼンテーションを通じて、研究者間での自由闊達な意見交換がなされ、全体を通じて日仏を通じて共通する研究キーワードがいくつか浮かび上がり、本ワークショップにおいて着目すべき今後の課題が明らかとなったと考えられる。すなわち研究の背景や目的にかかるキーワードとして culture, vulnerable, pedestrian, elderly driversなどが挙げられ、研究の方法に関するキーワードとしては driving simulator が挙げられた。



[Presentation and Networking]

発表一覧およびそれぞれの Abstract は別紙のとおりである。このうち日本側の発表は統計的処理の結果を重点的に説明するプレゼンテーションが目立つのに対して、フランス側の発表はドライビングシミュレータを用いて道路環境を再現する点を重点的に説明する場合が多い。一方で文化背景など交通行動に影響を与える要因に関する検討などが加わることで、交通に対する学際的研究の実践を拝聴できた。逐次的研究に傾注しやすい交通事故分析に対する貴重な意見が得られたと考える。

また、諸外国のワークショップやシンポジウム開催においてネットワーキングの重要性が高く評価される例に違わず、Coffee break and networking の時間が十分に確保されていたことで、公私交えた自由闊達なディスカッションが交わされた。ランチタイム、ディナータイムでは筆舌に尽し難いほどの歓待を受け、プレゼンテーションとネットワーキングとともに貴重な意見交換の場となった。



[For the Future]

今回ワークショップに関わった全ての研究者に対し、記して謝する。ここで構築した信頼関係を両国の橋渡しとするため、持続的に交流できる体制を整える必要がある。交通心理研究において両国の交流が果たす役割を学会全体で共有する必要があるとともに、過度な負担が生じることのない持続可能な国際交流体制の確立に向けて理事会ならびに国際交流委員会が果たすべき役割は大きいと考える。

